

能登の春を彩った
白と赤。

天狗平の御所桜

樹齢推定500年、県内で2番目に大きいエドヒガン「天狗平の御所桜」は今年も満開に咲き誇った。

「御所桜を守る会」事務局の西谷進さんによると、4月下旬から5月上旬、天狗平を訪れた車は200台以上。町内外から500人以上が御所桜を見に訪れた。

西谷さんは「今年は本当にきれいに咲いてくれてうれしかった。来年も満開に咲くよう世話をしていきたい」と巨木を見上げていた。

天狗平の御所桜(北河内) = 4月29日撮影

のとキリシマツツジ

能登半島は、キリシマツツジの古木群として日本一(≡世界一)の分布を誇る。今年も5月上旬から中旬にかけて、町内各地の庭先を真っ赤に染め上げた。

400本以上ののとキリシマが植えられた萬年寺(七見)では、キリシマの赤とコケの緑が見事なコントラストを魅せていた。住職の久保^{けんりゅう}献令さんは「今年は露地にある古木が例年になくきれいに咲いてくれた」と目を細めていた。

萬年寺庭園 八景苑のとキリシマ苑 = 5月7日撮影